

8月

2023(令和5)年8月1日 No.5

① 名古屋市保健所

感染症対策・調査センター

〒463-8585

名古屋市守山区桜坂四丁目207番地

電話 737-3712 FAX 736-1102

Mail a7373711-07@kenkofukushi.city.nagoya.lg.jp

感染症対策・調査センター

だより

蚊媒介感染症 ～蚊は病気を運ぶ生物です～

市内でよくみられるヒトスジシマカやアカイエカなどの蚊は、メスが産卵のためにヒトを吸血しますが、そのときにデング熱などの蚊媒介感染症といわれる病気に感染するおそれがあります。

日本では、9年前にデング熱の国内流行が発生してから大きな国内感染は起きていませんが、海外の特に熱帯・亜熱帯地域では、デング熱をはじめとした蚊がヒトに移す感染症（マラリア、チクングニア熱など）が恒常的に流行しています。世界的にみると、蚊は人の命を一番奪う生き物といわれています。

新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行して、今後海外との往来が増加するとともに蚊が媒介するウイルスも国内に持ち込まれることが予想されるため、注意が必要です。

かゆくなるだけだと思いませんか？



ヒトスジシマカ

通称ヤブカと言われ、吸血は昼間（特に、朝夕）が中心です。デング熱などを媒介します。



アカイエカ

吸血は夜間が中心で、屋内にも侵入します。ウエストナイル熱などを媒介します。

蚊媒介感染症の予防方法 ～蚊に刺されないために～

国内では、現在のところ蚊媒介感染症にかかる可能性は低いですが、接種できるワクチンは日本脳炎などに限られているので、蚊に刺されないことが一番の予防法です。蚊が多く生息しているような屋外で活動するときは、長袖・長ズボンなど肌をできるだけ露出しない服装を着用し、虫よけ剤を適切に使用しましょう。

また、蚊を発生させないことも重要な対策です。ヒトスジシマカやアカイエカは家屋周辺のちょっとした水たまりに産卵し、ボウフラ（幼虫）を発生させます。ボウフラを発生させない環境づくりをすることが大切です。



ボウフラの発生源となる排水ますや雨ざらしの容器

血を吸わない蚊もいるよ

先日、感染症対策・調査センターに1匹の大きな蚊が迷い込んできました。捕まえて調べてみると、トワダオオカという蚊でした。トワダオオカは自然豊かな環境に生息し、花の蜜などをエサとするだけで吸血することはありません。吻（写真矢印）が曲がっていて、胸部や腹部の一部がメタリック調の青や緑色をしているのが特徴です。



！スズメバチの巣が大きくなる季節です！

これからスズメバチの巣が大きくなり、活動が活発になってきます。
今回は、センターで行ってる分布調査で多く見られたコガタスズメバチ、
オオスズメバチ、モンスズメバチについて巣を作りやすい場所や対処方法
について解説します。



- ①天井裏 ②軒下 ③戸袋
④生垣の中 ⑤床下
⑥土の中 ⑦木の枝

ハチは主に左の絵のような場所に巣を作ります。
種類によって、天井裏や土の中などの閉鎖的な
空間、生垣や軒下など開放的な空間に巣を作
ります。



コガタスズメバチ

主に生垣、軒下



5月頃



9月頃



オオスズメバチ

主に土中



モンスズメバチ

主に樹洞



スズメバチではないですが…



アシナガバチ

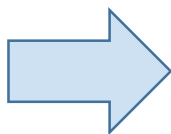


主に生垣、
軒下

ハチに刺されないために

- ・ 黒色
- ・ ヒラヒラしたもの
- ・ 香りや臭いが強い

ハチが攻撃しやすい



- ・ 白色や黄色の長袖を着る
- ・ 帽子をかぶる
- ・ 香水はつけない
- ・ 靴は黒色を避ける



ハチに刺されたら

- ・ すぐにその場所から離れる
- ・ 刺された箇所を水でよく洗い流す
- ・ 毒液をしぼり出す
- ・ 虫刺されの薬をつける
- ・ すぐに病院へ行く



8月頃から新女王バチが生まれる
10月頃までスズメバチの数が増え、
攻撃的になります。
巣を見かけたらその場から離れ、
刺激ないようにしましょう。

『感染症対策・調査センターだより』はインターネットでもご覧いただけます。名古屋市公式
ウェブサイト<http://www.city.nagoya.jp/> から感染症対策・調査センターで検索してください。